

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-188306

(P2021-188306A)

(43) 公開日 令和3年12月13日(2021.12.13)

(51) Int.Cl.

E04F 19/04 (2006.01)

F1

E04F 19/04 I01G

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2020-92522 (P2020-92522)
 (22) 出願日 令和2年5月27日 (2020.5.27)
 (11) 特許番号 特許第6758588号 (P6758588)
 (45) 特許公報発行日 令和2年9月23日 (2020.9.23)

(71) 出願人 520187469
 水島 尚
 北海道小樽市銭函2丁目33番13号
 (74) 代理人 110001841
 特許業務法人 梶・須原特許事務所
 (72) 発明者 水島 尚
 北海道小樽市銭函2丁目33番13号

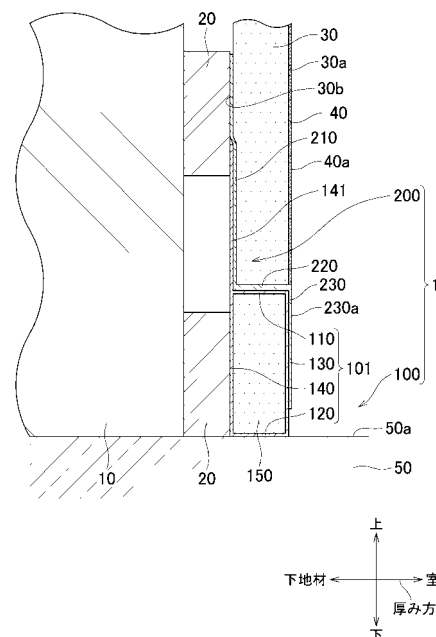
(54) 【発明の名称】 内装用建材

(57) 【要約】

【課題】床面と石膏ボード等との間に生じる隙間を隠す部材であって、床が落ち込むことで生じる隙間を隠すことができ、壁から室内側へその部材が突出しにくい。

【解決手段】内装用建材1は、床面50aに固定される床取付部材100と、壁取付部材200とを備えている。壁取付部材200は、胴縁20に固定される第1板状部分210と、第1板状部分210の下端から床取付部材100よりも室内側まで延びる第2板状部分220と、第2板状部分220における第1板状部分210側と反対側の端部から床面50aに向かって延びる第3板状部分230とを有する。床取付部材100と壁取付部材200とは、互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能である。第3板状部分230の表面230aは、クロス40の表面40aと同じ位置に配置される。

【選択図】 図2



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

床面より上方で下地材に取り付けられた内壁材の下方において、下面全体が前記床面と接触するように前記床面に固定される床取付部材と、

前記内壁材の厚み方向に関して前記内壁材と前記下地材との間に配置され、前記下地材に固定される第 1 板状部分と、上下方向に関して前記床取付部材と前記内壁材との間において、前記第 1 板状部分の下端から室内側に向かって前記床取付部材よりも室内側まで延びる第 2 板状部分と、前記第 2 板状部分における前記第 1 板状部分側と反対側の端部から前記床面に向かって延びる第 3 板状部分とを有する壁取付部材と、を備えており、

前記床取付部材と前記壁取付部材とが互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能であり、

前記第 3 板状部分における室内側に面した表面が、前記厚み方向に関して、前記内壁材における室内側に面した表面と同じ位置に、又は、前記内壁材における室内側に面した表面より前記下地材側に配置されることを特徴とする内装用建材。

【請求項 2】

前記床取付部材が前記第 1 板状部分と前記下地材の間まで延びていることを特徴とする、請求項 1 に記載の内装用建材。

【請求項 3】

前記壁取付部材において、少なくとも第 2 板状部分と第 3 板状部分の接続部が可撓性を有しており、

前記第 3 板状部分が、前記床取付部材に押し付けられることによって、自然状態よりも前記第 2 板状部分に対して室内側に変位することを特徴とする請求項 1 又 2 に記載の内装用建材。

【請求項 4】

前記床取付部材内に石膏からなる部分が含まれていることを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか 1 項に記載の内装用建材。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、内装用建材に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、建物の内装工事において、石膏ボード（本発明における内壁材）を胴縁（本発明における下地材）に固定した後、石膏ボードと床面との間の隙間を隠すために、木材や合成樹脂等で作製された巾木でその隙間を覆うことがある。かかる構成においては、建築後に、建物の揺れや、経年劣化及び乾燥等により、床が落ち込み、巾木と床面との間に隙間が生じることがある。

【0003】

特許文献 1 では、床面に固定した幅木受け座を使用し、上記隙間が表側へ露呈するのを防止している。当該文献の図 5 で示すように、幅木受け座は、断面が U 字型に形成されており、U 字型の内部へ、巾木を上方から差し込み嵌合させる。幅木受け座により巾木の下部が表側から被覆されることになる結果、幅木受け座が床材と一緒に沈下し、巾木の下部と幅木受け座との間に、上下方向に隙間を生じたとしても、その隙間が室内側へ露呈しにくい。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】 実用新案登録第 3 1 2 0 8 6 5 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

10

20

30

40

50

【0005】

特許文献1の巾木は内壁材から室内側に突出しており、家具等をできる限り壁に近づけて設置することが難しい。家具等が壁から離れていると、室内の空間を有効に利用したり家具等を安定して設置させたりできないおそれがある。

【0006】

本発明の目的は、床面と内壁材との間に生じる隙間を隠す部材であって、床が落ち込むことで生じる隙間を現れにくくすることができ、壁から室内側へその部材が突出しにくい部材を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明の内装用建材は、床面より上方で下地材に取り付けられた内壁材の下方において、下面全体が前記床面と接触するように前記床面に固定される床取付部材と、前記内壁材の厚み方向に関して前記内壁材と前記下地材との間に配置され、前記下地材に固定される第1板状部分と、上下方向に関して前記床取付部材と前記内壁材との間において、前記第1板状部分の下端から室内側に向かって前記床取付部材よりも室内側まで延びる第2板状部分と、前記第2板状部分における前記第1板状部分側と反対側の端部から前記床面に向かって延びる第3板状部分とを有する壁取付部材と、を備えており、前記床取付部材と前記壁取付部材とが互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能であり、前記第3板状部分における室内側に面した表面が、前記厚み方向に関して、前記内壁材における室内側に面した表面と同じ位置に、又は、前記内壁材における室内側に面した表面より前記下地材側に配置される。

【0008】

本発明の内装用建材によると、内壁材の下方において下面全体が床面と接触するように床面に固定される床取付部材と、内壁材の厚み方向に関して内壁材と下地材との間に配置され、下地材に固定される第1板状部分と、上下方向に関して前記床取付部材と前記内壁材との間において、前記第1板状部分の下端から室内側に向かって前記床取付部材よりも室内側まで延びる第2板状部分と、第2板状部分における第1板状部分側と反対側の端部から床面に向かって延びる第3板状部分とを有する壁取付部材とを備えている。また、床取付部材と壁取付部材とが互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能である。

【0009】

本発明の内装用建材は、上記の通り、床取付部材の下面全体が床面と接触するように床面に固定されているため、床面の真上に隙間を生じさせない。一方、建物の揺れ、経年劣化、及び乾燥等により床が落ち込むことで、内壁材と、床取付部材との間に隙間が生じていくおそれがある。本発明では、壁取付部材の第1板状部分は下地材に固定されており、また、床取付部材と壁取付部材とが互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能である。そのため、床が落ち込むことによる隙間は、床取付部材と壁取付部材との間に生じる。しかしながら、第3板状部分は第2板状部分における第1板状部分側と反対側の端部から床面に向かって延びているため、上記隙間は第3板状部分によって室内側に現われにくい。また、床が落ち込むことによる隙間が室内側に現れにくくなるので、隙間を通じた冷気の侵入を抑制することができる。

【0010】

また、第3板状部分における室内側に面した表面が、厚み方向に関して、内壁材における室内側に面した表面と同じ位置に、又は、内壁材における室内側に面した表面より下地材側に配置される。これにより、従来の巾木のように、室内側に内装用建材が壁から突出しない。よって、家具等をできるかぎり壁に接するように設置することができるため、室内の空間を有効に利用したり家具等を安定して設置させることができる。

【0011】

また、本発明においては、前記床取付部材が前記第1板状部分と前記下地材の間まで延びていることが好ましい。これによると、床が落ち込むことで、床取付部材と第2板状部

10

20

30

40

50

分との間に上下方向に関して隙間が生じても、床取付部材と壁取付部材の第１板状部分が厚み方向に関して一部重なりあうため、床取付部材と第１板状部分との間に隙間が生じにくく、下地材から室内側に向かって冷気が侵入するのを抑制することができる。よって、第３板状部分に加えて、室内側に冷気が侵入するのを二重に抑制することができる。

【００１２】

また、本発明においては、前記壁取付部材において、少なくとも第２板状部分と第３板状部分の接続部が可撓性を有しており、前記第３板状部分が、前記床取付部材に押し付けられることによって、自然状態よりも前記第２板状部分に対して室内側に変位することが好ましい。これによって、床取付部材と壁取付部材の密着性が高まり、冷気侵入の抑制効果を向上させることができる。

10

【００１３】

また、本発明においては、前記床取付部材内に石膏からなる部分が含まれていることが好ましい。これによると、内装用建材が燃えにくくなり、火事等の拡大を抑制することができる。

【図面の簡単な説明】

【００１４】

【図１】本発明の一実施形態に係る内装用建材及び内壁材を取り付けた後の室内の斜視図及び一部断面図である。

【図２】図１の一点鎖線で囲まれたIIの拡大図である。

【図３】図１に示す床取付部材の斜視図である。

【図４】図１に示す壁取付部材の斜視図である。

【図５】図１の内装用建材を室内に取り付ける施工状態を示す断面図である。

【発明を実施するための形態】

【００１５】

以下、本発明の一実施形態に係る内装用建材について、図１～図４を参照しつつ説明する。建物は、図１及び２に示すように間柱１０、胴縁２０（本発明でいう下地材）、石膏ボード３０、クロス４０（石膏ボード３０及びクロス４０は、本発明でいう内壁材）、及び床５０を有している。室内側に向かって、間柱１０、胴縁２０、石膏ボード３０、クロス４０の順に建物に取り付けられる。本実施形態の内装用建材１は、石膏ボード３０及びクロス４０の下端部周辺に取り付けられる。石膏ボード３０及びクロス４０は、床面５０

30

【００１６】

図２に示すように、内装用建材１は、床取付部材１００及び壁取付部材２００を有する。床取付部材１００は、プラスチック等の板状部材からなる外枠１０１と、この外枠の内部に充填された芯材１５０とによって構成されている。図３に示すように、外枠１０１は、左右方向に延びる直方体構造をしており、上壁１１０、下壁１２０、前壁１３０、及び後壁１４０を有する。直方体の一辺の長さは、厚み方向より上下方向に大きい。後壁１４０には、前壁１３０よりも上方に延びた突出部１４１が設けられている。上壁１１０、下壁１２０、前壁１３０、及び後壁１４０の厚さは同じであるが、異なってもよい。芯材１５０は石膏で構成されている。芯材１５０は充填されておらず、石膏からなる板状のものが外枠１０１内に収容されていてもよい。石膏を使用することで、内装用建材１が燃えにくくなり、火事等の拡大を抑制することができる。

40

【００１７】

図２に示すように、床取付部材１００は、石膏ボード３０及びクロス４０の下方に配置され、下壁１２０全体が床面５０ａと接触するように床面５０ａに固定されている。後壁１４０は、胴縁２０に接触するように配置されている。突出部１４１は、第１板状部分２１０と胴縁２０の間に延びよう配置されている。なお、後壁１４０及び突出部１４１のいずれも、胴縁２０に固定されていない。

50

【0018】

図4に示すように、壁取付部材200は、プラスチック等の可撓性を有する左右方向に延びた板状部材から構成されている。壁取付部材200は、床取付部材100と同じ材質であってもよいし異なってもよい。壁取付部材200は、鉛直方向に延びる第1板状部分210、第1板状部分210の下端から水平方向に延びる第2板状部分220、及び第2板状部分220における第1板状部分210側と反対側の端部から底面50aに向かって延びる第3板状部分230を有する。第1板状部分210及び第3板状部分230は、同じ厚さであり、第2板状部分220はそれより厚い。このように、第1板状部分210、第2板状部分220、及び第3板状部分230は厚さが異なっているものと同じものがあるが、すべて異なってもよいし、すべて同じであってもよい。第3板状部分230は、図4に示す自然状態（外力を受けている状態）では、下方に向かって鉛直方向に対して若干下地材側に延びている。

10

【0019】

図2に示すように、壁取付部材200の第1板状部分210は、厚み方向に関して石膏ボード30及び胴縁20との間に配置され、胴縁20に固定される。第2板状部分220は、上下方向に関して上壁110と石膏ボード30及びクロス40との間に配置され、第1板状部分210の下端から室内側に向かって上壁110よりも室内側まで延びる。第3板状部分230は、第2板状部分220における第1板状部分210部分側と反対側の端部から、床面50aに向かって延びているが、床面50aには接していない。第3板状部分230は、前壁130に押し付けられることによって、自然状態よりも第2板状部分220に対して室内側に変位している。第3板状部分230における室内側に面した表面230aは、厚み方向に関して、クロス40の室内側の表面である表面40aと同じ位置に配置されている。表面230aが、表面40aより下地材側に配置されていてもよい。

20

【0020】

上壁110と第2板状部分220とは固定されていないため、床取付部材100と壁取付部材200とは、互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能である。

【0021】

以下に、内装用建材1の取付方法について、図5を用いて説明する。まず、床取付部材100を取り付ける。後壁140が胴縁20に、下壁120が床面50aに接するように床取付部材100を配置する。次に、上壁110の上方から床50に向けて外枠101を貫通するように釘を打ち付けて、床取付部材100を床50に固定する。このような固定方法で固定すると釘頭が第2板状部分220と上壁110の間に挟まれるため、室内側に釘頭が出ない。なお、固定方法は、接着剤等を使用してもよい。

30

【0022】

次に、壁取付部材200を取り付ける。第1板状部分210の上部が胴縁20に、下部が突出部141に接するように、また、第2板状部分220が上壁110に接するように壁取付部材200を配置する。次に、室内側から胴縁20側に向かって、第1板状部分210に釘を打ち付けて、壁取付部材200を胴縁20に固定する。このような固定方法で固定すると釘頭が石膏ボード30と第1板状部分210の間に挟まれるため、室内側に釘頭が出ない。なお、固定方法は、接着剤等を使用してもよい。

40

【0023】

次に、石膏ボード30を取り付ける（図2参照）。石膏ボード30の下端が第2板状部分220に、胴縁20側の表面30bが胴縁20及び第1板状部分210に接するように石膏ボード30を配置する。そして、第1板状部分210を胴縁20に固定する場合と同様の方法で、石膏ボード30を胴縁20に固定する。次に、クロス40を貼り付ける（図2参照）。クロス40が、石膏ボード30の室内側の表面30aに接するように張り付ける。

【0024】

以上説明したように、内装用建材1は、床取付部材100の下壁120全体が床面50aと接触するように床面50aに固定されている。そのため、内装用建材1は、床面50

50

aの真上に隙間を生じさせない。一方、建物の揺れ、経年劣化、及び乾燥等により床が落ち込むことで、石膏ボード30及びクロス40と、床取付部材100との間に隙間が生じていくおそれがある。本実施形態では、壁取付部材200の第1板状部分210は胴縁20に固定されており、また、上壁110と第2板状部分220が固定されていないため、床取付部材100と壁取付部材200とが互いに対して上下方向に関して相対移動することが可能である。そのため、床50が落ち込むことによる隙間は、上壁110と第2板状部分220との間に生じる。しかしながら、第3板状部分230が第2板状部分220における第1板状部分210側と反対側の端部から床面50aに向かって延びているため、上記隙間は第3板状部分230によって室内側に現われにくい。また、床50が落ち込むことによる隙間が室内側に現れにくくなるので、隙間を通じた冷気の侵入を抑制することができる。

10

【0025】

また、第3板状部分230における室内側に面した表面230aが、厚み方向に関して、クロス40における室内側に面した表面40aと同じ位置に、又は、表面40aより下地材側に配置される。これにより、従来の巾木と異なり、室内側に内装用建材1がクロス40から突出しない。よって、家具等をできるかぎり壁に接するように設置することができるため、室内の空間を有効に利用したり家具等を安定して設置させることができる。

【0026】

また、床取付部材100の後壁140の突出部141が第1板状部分210と胴縁20の間まで延びている。これによると、床50が落ち込むことで、第2板状部分220と床取付部材100との間に上下方向に関して隙間が生じて、突出部141と第1板状部分210が厚み方向に関して一部重なりあうため、後壁140と第1板状部分210との間に隙間が生じにくく、下地材側から室内側に向かって冷気が侵入するのを抑制することができる。よって、第3板状部分230に加えて、室内側に冷気が侵入するのを二重に抑制することができる。

20

【0027】

また、壁取付部材200は可撓性を有しており、壁取付部材200の第3板状部分230は、床取付部材100の前壁130に押し付けられることによって、自然状態よりも第2板状部分220に対して室内側に変位する。これによって、床取付部材100と壁取付部材200の密着性が高まり、冷気侵入の抑制効果を向上させることができる。

30

【0028】

(変形例)

以上は、本発明の好適な実施形態についての説明であるが、本発明は上述の実施形態に限られるものではなく、課題を解決するための手段に記載された範囲の限りにおいて様々な変更が可能なものである。以下、上述の実施形態に係る変形例について説明する。

【0029】

上述の実施形態では、芯材150は石膏で構成されている。しかし、ほかの物質を含んでいてもよいし、石膏が含まれていなくてもよい。また、上述の実施形態では、外枠101の内部に芯材150が充填されている。しかし、外枠101の内部は空洞でもよいし、上壁110等と同じ材質が充填されていてもよい。

40

【0030】

上述の実施形態では、床取付部材100の後壁140が、前壁130より上方に延びた突出部141を有しているが、なくてもよい。

【0031】

上述の実施形態では、下地材を胴縁20としているが、間柱10を、又は、胴縁20及び間柱10を下地材としてもよい。なお、本実施形態では、石膏ボード30が固定される部材を下地材とする。

【0032】

上述の実施形態では、胴縁20が使用されている。しかし、胴つなぎでもよい。その場合、床取付部材100の後壁140及び壁取付部材200の第1板状部分210は、間柱

50

10及び胴つなぎに固定されていてもよいし、どちらか一方に固定されていてもよい。

【0033】

上述の実施形態では、第3板状部分230は、床面50aに接していないが、接していてもよい。

【0034】

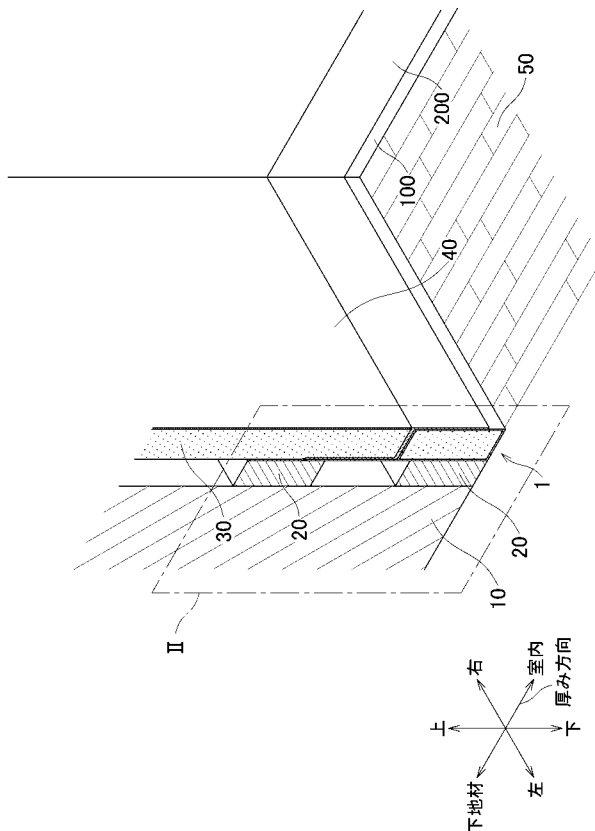
上述の実施形態では、壁取付部材200全体が可撓性を有する板状部材から構成されている。しかし、少なくとも第2板状部分220と第3板状部分230の接続部が可撓性を有していればよい。

【符号の説明】

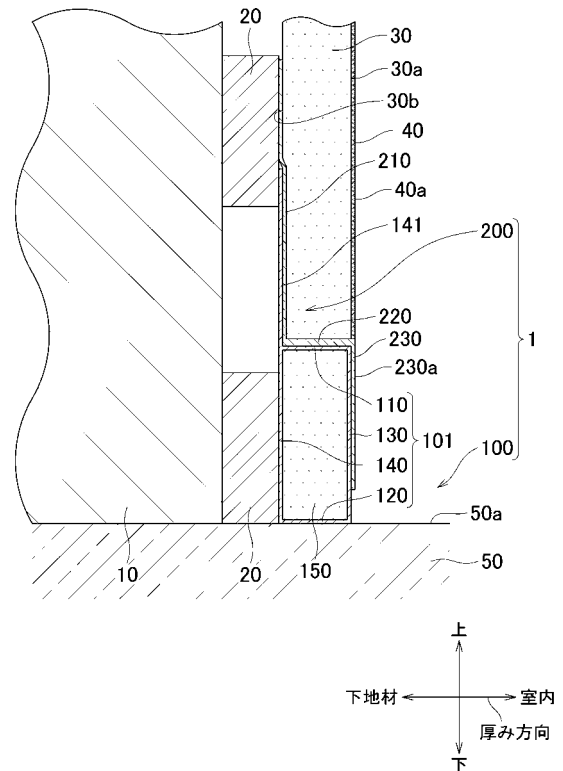
【0035】

- 1 内装用建材
- 10 間柱
- 20 胴縁
- 30 石膏ボード
- 40 クロス
- 40a 表面
- 50 床
- 50a 床面
- 100 床取付部材
- 150 芯材
- 200 壁取付部材
- 210 第1板状部分
- 220 第2板状部分
- 230 第3板状部分
- 230a 表面

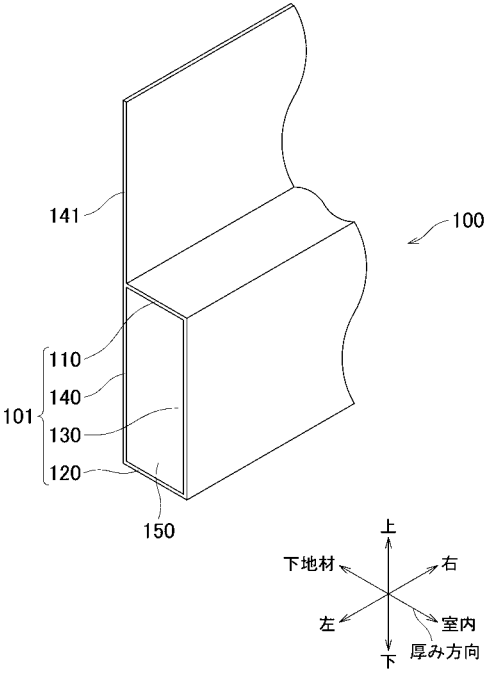
【図1】



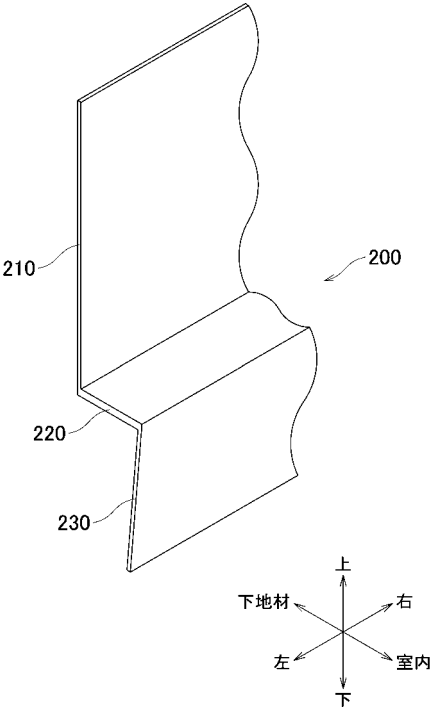
【図2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

